

きずな

2024
春・夏号
No.28

[散歩道]

千葉寺の歴史と自然を感じる散歩道

千葉寺駅を出発

広大な青葉の森公園を目指す散歩道

[特集]

千葉市を活動の場に、
大事なおもちゃを治療。子どもたちの
笑顔のために、年間800点以上を治療中。

千葉市 千葉おもちゃ病院

千葉市を活動の場に、大事なおもちゃを治療。 子どもたちの笑顔のために、年間800点以上を治療中。

「こわれたおもちゃをなんとかなおして。」こんな子どもたちの声に応えるため、9人のドクターが毎週開院。
“自分がこれまで培ってきた技術が子どもたちのために活かせる”ことが大きな喜びに。



思い出の詰まった おもちゃを治療

「千葉おもちゃ病院」は千葉市を活動の場に、壊れたおもちゃを「治療（修理）」するボランティア活動を行う団体です。おもちゃを修理するこうした活動は全国で行われていて、千葉おもちゃ病院はその中の一つ。千葉市で唯一のおもちゃ病院として現在9名のドクターが在籍し活動しています。

同病院は2000年に開業。現在定期的な活動として、毎週土曜日、中央区の「ハーモニープラザ」や「きぼーる」など市内のコミュニティセンターの部屋を借りて「開院（開催）」されています。

こうした定期的な開催以外にも、ショッピングモールや大きなおもちゃ屋さんで出張診療も行われていて、2023年には合計57回開催され、832点ものおもちゃの治療が行われました。2014年から2023年までの10年間を振り返ってみると、なんと9986点ものおもちゃの治療が行われています。

今回お話を伺った、金子光雄さんもこのおもちゃの治療を行うドクターのおひとり。元々、ある自動車メーカーでサービスエンジニアをされていたが、定年退職後この活動を始められ、2022年に3代目の会長になりました。

自分の技術を世の中の ために活かしていきたい

「定年を迎えたとき、自分がこれまで身に付けてきた技術や知識を役立てるものがないか、と考えました。そのときに出会ったのがおもちゃ病院の全国組織である『日本おもちゃ病院協会』の活動です。ここは日本中にあるおもちゃ病院の支援を行ったり、おもちゃを治すドクターを育成するための研修なども行っている場所です。ここで学んだあと、この千葉おもちゃ病院で活動を行うことになりました」と金子さん。

ほかにもメンバーには元システムエンジニア、元電力マン、元パソコン



金子光雄さん



を侵して、錆びさせてしまいます。錆が電線を伝わって腐食が基盤にまで行ってしまうと電気が伝わらなくなって、動かなくなってしまうのです。おもちゃ病院では、こうしたおもちゃの配線やターミナルがダメになつてしまったところを修繕し、あるいは掃除をして修復していきます。しかし基盤が破損している場合には、代わりのものを調達し交換することも難しく、修理を断念していただくこともあるとのこと。

その日、机に積まれたおもちゃたちの症状を見てみると、

「プリント配線腐食・断線 修正済」

「スピーカー断線」

「スイッチの接触不良」

「電池容量不足 交換してください」



メーカーの技師などの腕に覚えのある方々が集まっています。50代の方もいらっしゃるようですが、ほとんどのメンバーは還暦を過ぎた方々。金子さんと同じように、自分の培った技術や知識を世の中のために活かしたい、役立てたいという気持ちからこの活動に参加されています。

「電気系に強い方、マイコン系に強い方、機械的な知識が豊富な方など、それぞれに得意分野があつて、その特徴を活かして治療にあたっています。もちろんお互いに知識を共有しながら治療にあたっています」と金子さん。

治療中のご様子を見てみると、ドクターの皆さんが頻繁にお互いの机のところに足を運び、おもちゃを前にさまざまな意見を交換している姿が見られました。

といった「診断」や「治療結果」がひとつひとつのおもちゃに貼られています。パーツが欠損している場合でも、トランジスタや抵抗、スピーカーなど手に入るものは交換し、その実費だけをいただいています。

「沢山のおもちゃを治してきましたので、お持ちになったおもちゃを見て、故障の原因もだいたい見当が付きます。しかし始めた当時はおもちゃの修理などやったことがないので戸惑うこともありましたが、皆さんにいろいろ教えていただきながら、経験を積んできました」とおっしゃるのは、この日受付(問診)を担当されていた安藤ドクター。

自分の培った技術が活かせる喜び

「これはたぶんメンバー全員が感じていることだと思いますが、自分がこれまで培ってきた技術が人のために活かせることも大きな喜びになっていきます。いろいろ工夫して最後に『治った!』という瞬間の達成感、喜びも大きいですね」と金子さん。

ちょうど取材中にも小さな女の子から託されていた大切なオルゴールの修理が終わった瞬間がありまし

大人たちが、壊れてしまった自分のおもちゃをこんなに真剣に治してくれている。ぜひ子どもたちにも見せてあげたい風景です。

それぞれに得意の技術を活かして

取材当日お伺いしたのは蘇我コミュニティセンター・ハーモニープラザ分館の一室。広々とした部屋の中には頑丈な工作机が並び、その一つひとつにドクターが座り、おもちゃの治療を行っています。机の上には修理道具や細かいパーツが並んでいる中、エプロンを付け少し背を丸めるようにおもちゃに真剣に向かう姿はまさに職人。それぞれのドクターの机の傍らには、自分専用の道具が詰め込まれた大きなツールボックスも置かれています。「私の道具箱は20kgくらいあります」と金子さん。また机の一つには、治療済、治療前の持ち込まれたおもちゃが並び、並べられています。そして会場の入り口に「受付」のテーブルが置かれ、お話を伺っている間にもおもちゃを持った親子連れがお見えになって治療の相談をされています。

ここでまず最初の「問診」が行わ



た。その場に他のメンバーが集まり、修理を担当されたドクターが、先ほどまでの真剣な顔からうつつと変わってうれしそうな顔に変わる瞬間。大人の方でもこんなに見事な笑顔を浮かべるんだ、と思ってしまうほど最高のご表情でした。

最近のおもちゃは壊れたら治すということを前提にしておらず、ほとんどの場合、治すより買ったほうが簡単で安いケースが多いとのこと。それでも「治して使いたい」という子どもたちの声に応えていく。

「子どもたちは自分のおもちゃに思い出がいっぱいあって、このおもちゃじゃなきゃダメなんです。ですからおもちゃを治すのと同時に、子供たちの心も治して差し上げようという気持ちで作業を行っています」と金子さん。

「ぬいぐるみの足が取れちゃった、なんて女の子が泣きそうな顔で持ってきます。それを治して渡したとき

れ、おもちゃの種類やおもちゃの病状、最初の診断などを書き込むカルテが作成されます。そのうえで治療にかかる時間(1〜2週間程度)をお伝えし、治療が終了したところで連絡をして取りに来ていただく流れとなっております。

その際には「治療したおもちゃのどこをどういう風に治しました」ということを、担当したドクターがしっかりと説明したうえでお渡ししています。

修理作業は基本的に無料。パーツの取り換えなどを行った場合にはその実費(数百円程度)をいただくシステムとなっております。

「今のおもちゃはほとんど電池で動きます。そのため故障の原因も80〜90%は電池に起因した不具合です」と金子さん。

お子さんがおもちゃを長期間放置していると、アルカリ電池の場合、液が放出してしまい、その液が電極



のうれしそうな顔は最高ですね」ともおっしゃっていました。

金子さんはお孫さんからもおもちゃドクターとして頼りにされているそうで、「おかげで、おもちゃの電池がなくなっただけで、孫が私のところに来てくれます」と、嬉しそうに語られています。

毎週土曜日、月に4回行われている治療の会場については、「千葉おもちゃ病院」と検索していただくか、<https://chibatoyhospital.web.fc2.com/>にてご確認ください。

また「千葉おもちゃ病院」では、おもちゃの修理用の部品として再利用したり、修復後に子ども関連施設に寄付を行うため、いらなくなったおもちゃの寄付も募集しています。連絡先もホームページに掲載されています。ご協力をよろしく願っています。



散歩道

千葉市 千葉寺駅周辺

千葉寺の歴史と自然を感じる散歩道

千葉寺駅を出発。 千葉県立中央博物館を 目指す散歩道

千葉寺駅を出発し、 千葉県立中央博物館へ

今回の散歩は、京成千原線千葉寺駅を出発し、青葉の森公園内にある千葉県立中央博物館を目指します。

出発地の千葉寺駅は、京成千葉駅から2つめ、平成10年（西暦1998年）に開設された駅です。駅としてはまだ新しさが感じられる場所で、駅前のロータリーや駅の横を走る街道や歩道も広々と設計されていて、その解放感も格別です。風景を遮る高いビルもなく、駅を二歩出ると、空が広々と見渡せる気持ちの良い空間が広がります。

それでは散歩スタート。まずは線路横の道を進み、住宅街の中を進んでいきます。道はなだらかな上り坂になっています。歩き進んでいくと「千葉寺三差路」の交差点に出ます。ここを右折すると、最初の立ち寄りポイント、千

葉寺駅の駅名の由来となっている千葉寺があります。

千葉寺は千葉市内最古の寺院で和銅2年（709年）の飛鳥時代に創建されました。平安時代、千葉常重が千葉城に移るとともに千葉氏の祈願所となりました。

正面の仁王門を入ると、正面には歴史の重みを感じる大きな本堂。そしてその手前には本堂にもまして高く伸びる大イチョウの姿が目に入ります。この大イチョウは千葉寺創建の翌年に植えられたとされ、樹齢は千年以上、高さ約30m、目通り幹囲は8mもあります。今では千葉寺を象徴する存在として広く市民に愛されている存在で、葉が黄色く色づく秋の姿は本当に見事の一言です。

千葉寺を出てさらに進むと、左側にハーモニープラザの大きな建物が見えてきます。ここは今回の特集に登場し



ている「千葉おもちゃ病院」の会場にもなっている場所です。

千葉寺駅前から繋がる大通りにあたりますのでここを左折。進んで行く交差点の右側に駐車場入口があり、広大な公園が見えてきます。今回の散歩の目的地、千葉県立中央博物館のある青葉の森公園です。

しかしゴールは少し先。公園はともても広大で見どころも満載。まだまだ散歩は続きます。青葉の森公園は日本の畜産技術研究の発祥の地として大正6年（1917年）に設立された農林水産省畜産試験場の跡地を利用し、その残された貴重な樹木や自然の地形を活かした広大な公園です。

昭和62年（1987年）にはスポーツゾーンが完成し、その後、生態園、彫刻の広場、西洋庭園、芸術文化ホール、おはなみ広場、さくら山など次々と施設が完成。千葉県立中央博物館も平

成元年（1989年）に開設されました。ゆつくりと園内の散歩を楽しむのもよし、博物館や彫刻の広場、西洋庭園を回ってアートの世界に触れるのも最高です。

また、園内には九十九里の海産物を江戸へと運んだ土気往還（旧東金街道）の旧道が奇跡的に昔のままに残されている場所があります。

今回の散歩の終点、千葉県立中央博物館は「房総の自然と人間」をテーマに千葉県の自然と歴史について学べる総合博物館です。隣接する生態園では、房総の代表的な自然が再現され、動植物の生態を身近に観察することができます。皆さんが日頃暮らしている千葉県の成り立ちやこれまで知らなかった千葉の新しい一面に出会えるかもしれません。散歩の仕上げとしてゆつくりとお散歩気分で見回れば、きっと新しい発見もあるはずですよ。



[エクササイズ]

はじめよう! かんたんストレッチ! 第12回

1日たった5分程度。かんたんストレッチを毎日無理なく続けることで、体力増進を目指しましょう。第12回は、「関節を柔らかくするストレッチ」。冬に溜まった疲労の回復を目指しましょう。

【こんな方におすすめです】

- 冷えやむくみを緩和したい
- 関節部分に痛みが出るときがあるので予防したい

関節は身体の動きの要。椅子に座って作業する時間が長かった、立っている姿勢や歩いている際の姿勢が悪かったといったことが重なると関節が硬くなり体全体の動きがぎくしゃくしてしまいます。血行が悪くなったり、関節部分が痛むといった症状も考えられますので、毎日行う簡単なストレッチで改善を目指しましょう。

- ストレッチ中は呼吸を止めないこと
- どこが伸ばされているのか意識すること
- お風呂上りなど、身体が温まっている時が効果的

足の関節を滑らかにするストレッチ

動作1

脚を前に伸ばして座ります。痛みがあるときは無理をしない程度で。



動作2

足首を体から遠くに離すように伸ばして、そのまま5秒間止めます。



動作3

足首を体に近づけるようにして、そのまま5秒間止めます。2、3の動作を10回程度繰り返しましょう。

[英会話ワンポイントレッスン]

はじめてEnglish!

イングリッシュ

~海外からのお客さまと
小さな国際交流を楽しもう!~

vol.12

「味について伝える」編

皆さんもかんたんな英語を覚え、英会話に挑戦してみましょう。今回は「味や食事の感想」の英会話についてのさまざまな表現をご紹介します。

This cake is so sweet.

(訳)このケーキはとても甘い。

(カタカナイングリッシュ)

ディス ケーキ イズ ソー スイート

This is a bit salty.

(訳)ちょっとしょっぱいね。

(カタカナイングリッシュ)

ディス イズ ア ビッツ ソルティ

bit: ちょっと

This is so sour.

(訳)とても酸っぱいです。

(カタカナイングリッシュ)

ディス イズ ソー サワー

sour: 酸っぱい

I love spicy food.

(訳)辛いもの大好き。

(カタカナイングリッシュ)

アイ ラヴ スパイシー フード

spicy: 辛い(ピリッとした辛さ)

千葉の野に生きる 野花と野草

-12-



寒さがようやく緩み、暖かな季節が到来しました。日常の散歩コースにも、春の到来を告げるさまざまな草木や野花が現れてきます。

その中の一つか二つ、名前や姿を覚えておくと、自然を眺める小さな目的ができて、いつもと違った自然の細やかな風景も見えてきます。

■ツユクサ

梅雨が明けてしばらくした頃、土手の斜面や道端に可憐な青紫色の花を咲かせるのがこのツユクサです。群生することが多いため、比較的すぐに見つけることができます。一年草で、高さは10〜20cmくらい。直立することはなく、茎が地面を這って分枝しながら群れを増やしていきます。

花は鮮やかな青色で、花びらが3



枚あります。上の2枚の花びらは青くて大きく目立ちますが、よく観察するとその下に白くて小さい花びらが1枚あります。この青い花びらに挟まれるようにコントラストも鮮やかに黄色く伸びているのは、雄しべの一部。

日本各地に分布していますが、ヨーロッパ原産と言われています。ヨーロッパ原産と言われています。

この花は、早朝に開花して午後にはしぼんでしまう短命花です。ツユクサの和名は多く、『日本植物方言集』（1972年）には、18

5もの別名が収載されています。

露を帯びた草の意味の「露草」のほかにも、花弁の色を表現した「青花」、びったりくっついた苞葉の様子を表した「帽子花」。花の汁を衣にこすりつけて染めていたことから古くは「着草」とも呼ばれていました。また耳を澄まして小穂を振ってみると、かすかな音をたてます。このため「スズガヤ」とも呼ばれています。花言葉も「なつかしい関係」「わずかな楽しみ」「尊敬」「私の心に気づいて」と多彩です。

■ヒルガオ

北海道から九州の日当たりのよい野原や道端などに生えるつる性の多年草で、日当たりを求めツルで水平・垂直方向に伸びていきます。

早朝から開花する「朝顔」、夕方から開花する「夕顔」、そして夜に開花する「夜顔」に対し、主に日中に花が見られることからヒルガオ（昼顔）と呼ばれています。ここで使われている「カオ」とは大きくて見た目が美しい花の意味。

花は夜明けとともに開き、午後には精気を失って、花による違いもありますが15時ごろにはしぼんでしまいます。

日中にアサガオの花そっくりの爽やかな漏斗状の花を咲かせるのが特徴で、茎はつるになり、上から見て左巻きによじのぼるのもアサガオと同じです。

ヒルガオのフランスでの花言葉は「昼の美人」。日本でも万葉の時代から「容花」として容姿端麗な女性を思い浮かべるほど美しい花とされてきました。一方、その繁殖力旺盛な面から「危険な幸福」との花言葉も。またツルが絡みつく様子から「絆」の花言葉もあります。

